



## 北海道遠別小学校との交流 2/24、28



### 北海道遠別町 ゆかりの地 神山

明治30年(1897年)、池ノ上、広瀬村などの39戸の方々が池広団体として、およそ1,500キロ離れた北海道遠別の地に開拓団として入植しました。大変な苦労の後、最北の米どころ、メロンの産地として遠別町を発展させたそうです。平成9年の北海道遠別開基100年を記念し、遠別のルーツである神山との交流を深めたいと、平成10年から小学校交流事業が始まり、毎年小学生5・6年が隔年で互いの地を訪問してきました。



コロナ禍で令和2・3年は交流事業が中止されました。そのため、6年生は遠別へ訪問することも、神山に招待することもなくなり、交流ができないまま卒業することとなりました。そこで、なんとか交流の縁をつないでいきたいと、今年から一人一台タブレット端末が導入されたこともあり、オンラインでの交流会をお願いしたところ、快く受け入れてくださいました。6年生は、自分たちで交流会の流れ、ゲームなどを交流会の企画を考えました。「ふくいふるさとCMコンテスト」に応募した30秒のCMで学校や地域紹介をした後、自己紹介をし、自分たちで調べたり考えたりしたクイズやゲームで交流しました。言葉の違いに着目して、福井と北海道の方言クイズは、全国の方言も調べて盛り上がっていました。

遠別小学校の紹介では、タブレット端末の導入が8年前にあったこと、制服ではなく私服で学習していること、餅米やメロンなどの特産物を教えていただきました。始めは初対面同士で、お互い緊張している様子が伝わってきましたが、最後の3グループに分かれて書いた絵でお題を当てるクイズの頃には、画面越しに盛り上がり楽しむことができました。子どもたちは「卒業前に交流ができてよかった。楽しかった。」と感想を言っていました。

28日は5年生も交流し、今年の夏に会えることを楽しみにするなど、学年ごとの交流で貴重な一時を過ごすことができました。卒業式間際で、感染症や吹雪で休校がある中、快く交流会を受け入れてくださった遠別小学校のみなさま、オンラインでの交流会をサポートくださった地域講師の方本当にありがとうございました。今後もオンラインでの交流会を計画し、なかなか逢えない遠く離れた北海道にも友達がいることを、子どもたちが誇りにし、大切にしていきたいと思います。